

次郎長

題字 竹内宏

次郎長翁を知る会
会報「次郎長」

35号

平成28年8月1日発行

発行/編集

次郎長翁を知る会

会長 山田健司



竹内宏氏追悼特集

清水と次郎長を

こよなく愛した

竹内宏先生に捧げます



「次郎長で行かざあのかい」結成総会で記念
講演をする竹内宏氏 平成18年5月16日

平成二十八年四月三十日、次郎長翁を知る会名誉会長竹内宏氏がご逝去されました。当会の設立発起に清水を代表する経済人・文化人の諸賢より推薦されて以来会長として二十余年、これまで会を牽引されてきました。

その間、「真の次郎長像を後世に伝える」という理念の下、様々なイベントや交流事業に取り組み、またご自身の講演会等に於いても次郎長

の功績やその生き方を織りまぜるなど、市民のみならず各界へも幅広く、「新しい次郎長像」をアピールし、多くの成果と足跡を残されました。ここに竹内宏氏の功績を讃えつつ、次郎長翁を知る会を通じて氏と長年親交の深かった会員を代表して四名の運営委員による追悼文を掲載いたします。

合掌



史跡探訪ツアー 境内に次郎長地藏が祀られている愛知県半田市乙川の光照寺にて 平成23年4月21日

郷土の巨星逝く

——竹内先生を悼む——

山田 健司

竹内先生が会報「次郎長」第一号で「私が清水次郎長をなぜ尊敬しているかといえれば後半生が素晴らしいからです。だいたい前半生がぐれて、後半生が真人間になる」というのは、英雄偉人の辿る一つの定型だが、次郎長が後半生、真人間になるきっかけとなったのが明治維新です。」と書いていたことが忘れられませんでした。

人の輪の広がりを願う

平成四年（一九九二）、歿後百年の節目に郷土の偉人「次郎長の真の姿を後世に伝えよう」と地元旧清水市の財界人や市民有志、観光協会が呼び掛けあって、次郎長翁を知る会を旗揚げして会長を竹内先生が引き受けられた。

それ以来二十余年ずっと努められた。いわき市の愚庵会や次郎長を警固役に抜擢した伏谷如水と市原市との交流、宿敵黒駒勝蔵との友好、そしてなによりも船宿「末廣」の復元など多くの成果をあげてこられた。

先生は郷土清水から次郎長の実像を語り継いで、それによって人の輪が広がってゆきゆきを願っていた。

グローバルな観点

竹内先生との思い出の中で、ある時清水駅裏の小料理店のカウンターに座って三人で酒を呑んだときのことだった。酒もすすんでいつしか仏教談義になったとき、輪廻転生で人は死んでも生まれ

変わるといふが、今度生まれたらなににになりたいという話になった。私は凡庸にまた男に生まれたいと云った。いまは鬼籍の田口英爾氏は、笑いながら「そうだな、女になってみたいな」と云った。そのとき竹内先生は鳥になって自由に空（世界）を飛び回ってみたいと云った。



千葉県市原市舞鶴に建てられた伏谷如水と次郎長の碑にて
平成 12 年 4 月 3 日

エコノミストとしてグローバルな観点に立って物事を見て自由に生きることを望んでおられたのだった。

それからまもなくして二〇〇四年秋、竹内宏先生が中国上海師範大学の開校五〇周年記念式典で名誉教授の栄誉を授与されることになり、有志と上海旅行に便乗した。

大学の国際交流室で副学長以下の幹部と通訳を入れて懇談

したり、広い校内を見学したり、迎賓館で昼食パーティーが開かれたりして、思いもよらぬ歓迎を受けた。大学の先生への信頼と感謝への気持ちが強く感じられた。上海と杭州の四泊五日の旅の想い出はいまでも私の財産になっている。

郷土をこよなく愛した

先生は郷土清水をこよなく愛していた。清水の地に下り立つと清水弁で話した。

会の史跡探訪ツアーには多忙でも必ず参加されて、恒例のバス車内での経済談義は「路地裏の経済学」そのもので、事例を挙げながらわかりやすい解説は皆の楽しみの一つでもあった。庶民の中にいて、庶民の目線で物事を見つめる姿は、さながら晩年の次郎長に似ていた。

巨星逝く。最後にお会いしたのは、昨年の夏でした。今度いっしょに食事をしてよつと日程調整をしている間に、体調を崩されて実現できなかった。

精神的支柱の存在で悔やまれて残念でならない。本当に惜しい人を亡くした。郷土にとっては大きな損失だ。

私も次郎長翁を知る会は竹内先生の精神と功績を、これからも大切に守り育て、次郎長を通じて人の輪をさらに広げていかなければならないと改めて思っているところである。

竹内前会長を偲ぶ

故郷を想う真摯な姿

私は、清水次郎長を知る会の竹内前会長の時代に、清水次郎長の史跡ツアーの計画を担当していました。竹内前会長は、清水次郎長の後世の立派な業績を世に出そうと常に努力しておりました。

当時、竹内会長は銀行の開発担当の役員をはじめ、日本観光連盟の理事、警察関係、ファッション業界等の要職を兼務し、さらに経済学者として「路地裏の経済学」等を出版し、全国的に知名度をあげ講演の依頼が多いにもかかわらず、史跡ツアーには積極的に参加されて各地へ出掛け、その先でも幅広い教示と温厚で誠実な人柄で現地の方々との輪を取り持つて下さり、企画者の私は本当に助けられました。

幅広い人脈を創出

いわき市の天田愚庵会、千葉県市原市の鶴舞藩を知る会との繋がりも、こつこつと竹内前会長が創出した人脈と言えるでしょう。市原市の鶴舞公民館の広場には、次郎長が恩義のある伏谷如水と清水次郎長の名前を刻んだ記念碑が建ち、公園内

に知る会の同志でその時植樹した桜の木も成長し、きつと市原市民の皆様にも喜ばれていることでしょう。

また大聖寺ツアーの際に宿泊した山代温泉の加賀百万石ホテルは、当時日本一と評判高く、予約を取るのも難しい時代でしたが、その一位に貢献したのが竹内前会長であり、そのおかげで我々も手厚い歓迎を受けたのも思い出です。

故郷を想う真摯な姿

次郎長翁を知る会のツアー以外にも、竹内前会長の講演に同行する機会がございました。先生は何処へ行っても講演の最後には清水次郎長の功績を語り、「清水市には、清水次郎長翁を知る会というものがあります。是非ご加入をお願いいたします。」とお誘いの言葉を忘れませんでした。今も、故郷を想う竹内前会長の真摯な姿が目には浮かびます。

最近一部の歴史家の中から、「次郎長の前半生の諸国行脚は東海一の親分としてのネットワーク作りだった」との前向きな説も出はじめております。

長田 三則

様々な業界に幅広いネットワークを作られた竹内前会長。その偉大な星を失い本当に残念な気持ちでいっぱいです。心からご冥福をお祈り申し上げます。



平成 13 年 4 月 1 日にオープンした次郎長の船宿「末廣」

八十余年の思い出 天野 香

八十年前にタイムスリップします。

竹内家は清水の堂林にすんでいました。隣家の福島家の姉妹は清水幼稚園に通っていました。姉の良子さんは幼稚園で私と仲良しでした。良子さんも私も背が高く、集合写真では二人とも首から上が出ていました。卒園の頃、福島さんたちは東京へ引越して行きました。

あの頃から何年過ぎたでしょうか。次郎長の会で竹内さんと親しくなり、福島家とは上京後も交流されていると、よく話を聞きました。



「次郎長で行かざあ会」結成総会 左端が天野香さん
平成 18 年 5 月 16 日

ある日、竹内さんから私の家に電話があり、「今、良子さんと電話を替わるからね」と言われ、私は良子さんと何十年ぶりに話をさせていただきました。良子さんはアメリカ在住で、帰国すると竹内家に来られたそうです。竹内さんの優しさを感じるエピソードです。

上海旅行にご一緒した時は、大学を見学したり、教授宅を訪問したり、歌詞にあこがれて蘇州に行けば予想外だったり、レストランでカニを歩かせた後に食べたり、ユーモアいっぱい旅でした。

次郎長翁を知る会20周年記念「加藤剛さん清水を語る」の時は竹内さんが開会の詞、私は講師紹介をさせて頂き、大変お世話になりました。

今頃はあちらで田口英爾さんと盃を交わしながら話していることでしょう。そのうちに私も仲間に入れてください。楽しかった思い出を本当に、本当にありがとうございました。

竹内先生を偲んで 鈴木幸江

竹内先生の訃報を知らされたとき、私は涙が溢れて止まりませんでした。初めて先生にお会いしたのは、昭和六十二年一月十九日、先生が五十六歳のときでした。当時市議会議員でした金子昌義さんが藍綬褒章を授与され清水銀座の料亭「庵原屋」でのお祝いの席に同級生の竹内宏先生が出席された時です。

平成四年五月六日に「次郎長翁を知る会」が設立され、会長に竹内先生がなられ、私は平成六年に入会させていただきました。



庵原屋にて 竹内先生の写真右が鈴木さん
昭和 62 年 1 月 19 日

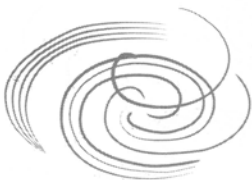
会場で主催する次郎長の足跡を訪ねる旅、「次郎長フォーラム」など、郷土ゆかりの各界の著名人と呼んでのイベントの数々。私は運営委員として先生の横でお手伝いをさせて頂いてきました。が、早いもので二十四年が過ぎました。

「後世に、しっかりと次郎長像を語り継ぐことこそ次郎長翁を知る会の役目である」と先生は良くおっしゃっていましたね。

そんな先生から私は本当にたくさんのお話を聞かせて頂きました。

お会いしてから三十年近い、先生との思い出の数々。私より七日早生まれの先生をいつもお兄様の様に慕っていました。

謹んでお悔やみとご冥福をお祈り申し上げます。



来年の清水次郎長没後百年を機会に、次郎長の真の人間像を探り後世に語り継いでいこうと、地元清水市の財界人や市民有志、観光協会などが呼び掛け合ひ六日、「次郎長翁を知る会」設立総会を同市役所会議室で開き、正式に旗揚げした。

清水で「知る会」旗揚げ

2070 法人、200人参加

来年没後百年 次郎長

真実の姿 後世に

正式に旗揚げした「次郎長翁を知る会」の設立総会—清水市役所会議室で



その偉大な時代の変化を追体験できる。そのとき、清水にレジオンが生まれ、清水にレジオンが生まれると思うことし、かつて日本の変革の時代に清水を活力ある都市に切り開いた先覚者を研究することを通して清水市の活性化、地域づくりができるのではないかと抱負を語った。

同会は現在までに会員登録者が法人七十社、個人二百人。当面、六月十三日には梅蔭寺主催の清水次郎長百回忌記念「講演と映画の夕べ」を協賛して午後一時から同市民文化会館で開く。

総会には発起人代表の鈴木与平幹事会長、後藤磯吉は、ろもろフーズ会長、佐々木哲雄清水銀行会長、同市出身の竹内宏長銀総合研究所理事長（静岡新聞論説委員）、林仁山梅蔭寺住職の五人をはじめ、市観光協会長の宮城島市長や県議、市長の宮城島市長の服部令一氏を連任した後、本年度の

来月13日 「講演と映画の夕べ」に協賛

らが出席した。会長に竹内氏、名誉会長に鈴木氏、最高顧問に後藤、や晩年當んだ汽船宿「末広」、東海遊侠伝「末いた天田五郎（愚庵）の清水市での足跡についての調査研究やシンポジウムを開催することなどを決めた。会長に就任した竹内氏は「だれでも若いときにはク」

事業計画として、明治初年に次郎長が主宰した英語塾「だれでも若いときにはク」を「東海遊侠伝」を「末いた天田五郎（愚庵）の清水市での足跡についての調査研究やシンポジウムを開催することなどを決めた。会長に就任した竹内氏は「だれでも若いときにはク」

次郎長翁を知る会設立を伝える
静岡新聞 平成4年5月7日



福島県いわき市天田家墓前にて 平成20年11月9日



探訪ツアー車内での解説を参加者は楽しみにしていた。

竹内宏氏と「次郎長翁を知る会」の歩み

平成三年

「次郎長翁を知る会」設立発起人、府川松太郎・服部令一両氏の要請と鈴木与平氏・後藤磯吉氏らの推薦を受け、竹内宏氏は会長役を受諾 設立に向け準備が進む

平成四年

「次郎長翁を知る会」設立総会開催(五月六日)
会報「次郎長」創刊 発行人竹内宏 題字揮毫竹内宏(十月二十日)

平成五年

史跡探訪ツアー、天田愚庵の故郷福島県いわき市との交流(十二月四日)
次郎長一〇〇年祭開催 記念パネルディスプレイカッション「次郎長を語る」
出演・竹内宏氏、作家村松友視氏、SBSラジオ井出孝氏
いわき市の愚庵会来清 「清水市いわき市文化交流会」開催
翌日、梅蔭寺内において「愚庵歌碑」建立除幕式(十一月一日)

平成六年

史跡探訪ツアー、富士山麓・次郎長開墾地及び天照教視察(五月二日)

平成七年

史跡探訪ツアー、いわき市「第二回清水市いわき市文化交流会(十一月二日)

平成十年

「慶喜さんと次郎長・トークショー」清水市民文化会館(五月三十日)

平成十一年

清水湊開港百周年にあたり、日の出マリナーパークに「次郎長宅跡」の碑除幕式
題字揮毫竹内宏(清水市日の出開発室建立)(六月二十日)

平成十二年

伏谷如水の舞鶴藩・千葉県市原市を訪問
関係子孫や市原市長、地元市民と交流会 舞鶴講演にて桜の植樹(四月三日)
次郎長の船宿「末廣」の復元計画が始まる

平成十三年

市原市舞鶴公園内に「伏谷如水ト清水次郎長ノ碑」除幕式参列(二月二十三日)
次郎長の船宿「末廣」完成一般公開(四月一日)

平成十五年

史跡探訪ツアー、加賀大聖寺関所門 山代温泉百万石へ宿泊(十月二日)
船宿末廣内に「次郎長清水港警固之碑」を建立 除幕式(三月十五日)

平成十六年

千葉県佐倉の「歴博」開催 次郎長の遺品が数多く出品された
「民族文化とつづられたヒーロー」展を視察 (五月十一日)

平成十八年

NHK木曜時代劇「次郎長背負い富士」など高まる次郎長機運
「清水に元気を」と竹内宏会長「次郎長で行かざあのか」を発足(五月一六日)

平成十九年

次郎長フォーラム開催 清水テルサ
パネリスト・小和田哲男氏、宝井馬琴氏、村松友視氏、山本一力氏、竹内宏氏
コーディネイター・秋岡榮子氏(十二月三日)

平成二十二年

次郎長のライバル黒駒勝蔵生誕の地を訪ね、竹内宏氏は勝蔵の子孫小池氏と友好の握手を交わす(十一月二十三日)

平成二十四年

会創立二〇周年記念事業「加藤剛さん清水を語る清水テルサ(六月六日)

平成二十五年

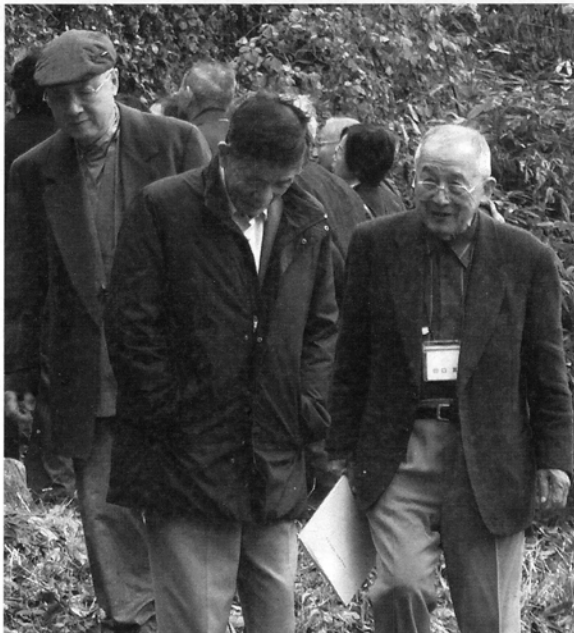
山梨県立博物館で開催の「清水次郎長VS黒駒勝蔵」を視察
恒例の史跡探訪ツアーへの竹内宏氏の参加はこれが最後となる(三月六日)

平成二十五年

幼稚園からの親友で、ともに本会の牽引役だった田口英爾氏、永眠
以降、会長役を山田健司氏とし運営を一任し、自らは名誉会長として相談役となる(三月二十二日)

平成二十八年

四月三十日 永眠



黒駒勝蔵生誕地にて 平成 22 年 11 月 23 日
左から林岡成氏、竹内宏氏、田口英爾氏

次郎長翁を知る会
会報「次郎長」 35 号

平成 28 年 8 月 1 日発行

発行/編集

次郎長翁を知る会

会長 山田健司

連絡先

〒424-0806

静岡市清水区辻 1-1-3-103

(公財)静岡観光コンベンション協会

清水事務所内

Tel 054-388-9181 Fax 054-388-9182

www.jirocho.com

info@jirocho.com